

I. 新学会が社会変容を達成するための構想（全体像）

新学会では、研究活動に基づき生み出される 27 の革新的要素技術を核とし、革新的要素技術を担う研究会等を経糸に、各要素技術を有機的に連携させ学術・技術的な価値を創造・向上させるためのワーキンググループ(WG)を緯糸として設置、関連組織や機関と連携することで、ビジョンに掲げる「繊維イノベーションエコシステム」を駆動させる。緯糸となる「教育・技術継承 機能強化」WG では、次世代を担う若手育成のスキームの確立を、「国際・地域連携強化」WG では論文誌の充実を、「異業種強化」WG では交流の場の提供を、「戦略提言強化」WG では、重点分野を策定し課題解決に向けた体制作りと、2030 年に向け行動目標 (SDGs) を明確にするミッションを達成することで、「サステナブル」で「ウェルビーイング」な社会の実現を力強く牽引する。

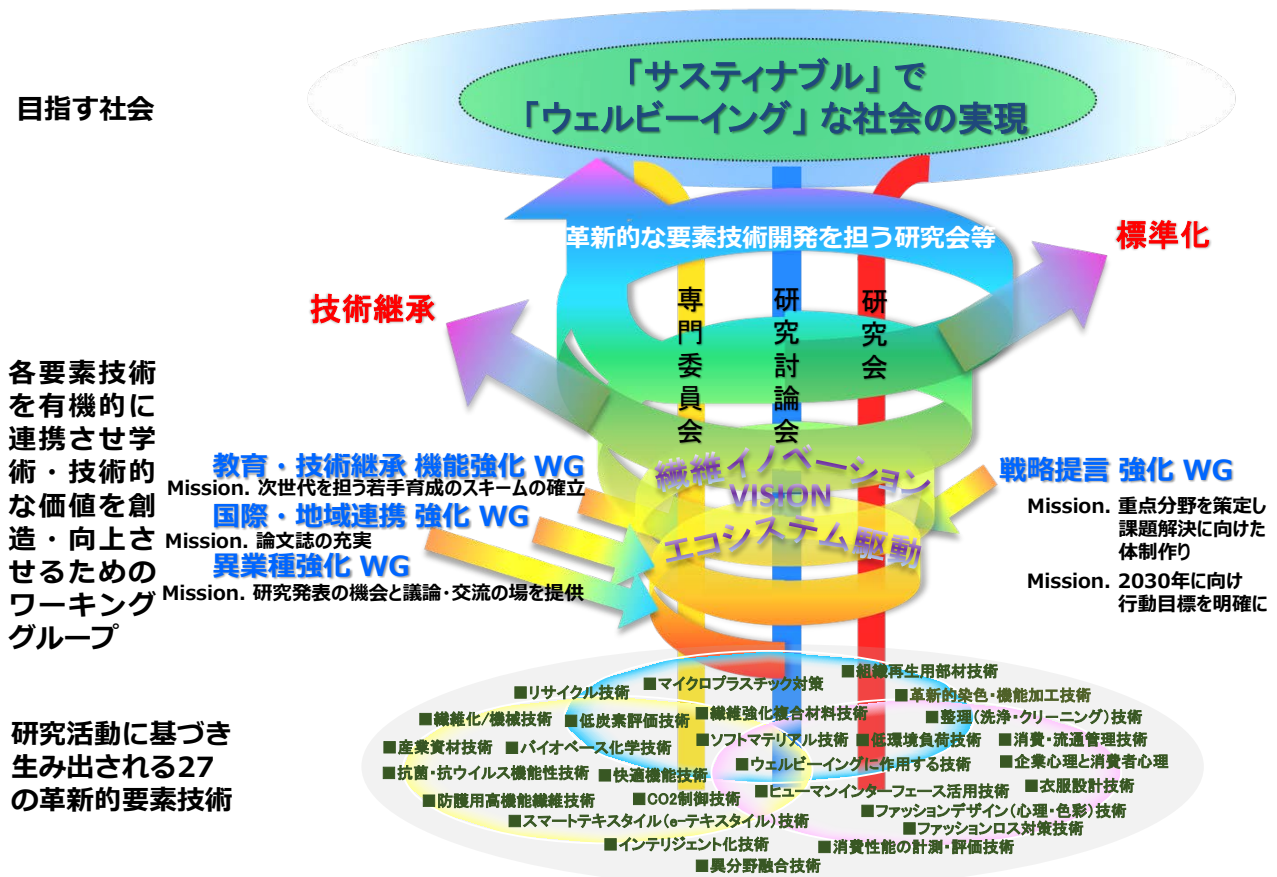


図 I. 新学会が社会変容を達成するための構想（全体像）

II. 研究活動に基づき生み出される革新的要素技術

新学会は、図中央に示した 27 の「II. 研究活動に基づき生み出される革新的要素技術」を核とし、それらから創出される機能として「III. その要素技術を社会に還元し、社会変容を実現するための機能」を備えた組織を目指す。

繊維関連技術を革新的に進展させるためには、個々の要素技術の革新だけではなく、それらを統合的に活用することで繊維関連技術の新たな学術・技術分野の開拓にも繋がる。

そこで、広範な要素技術を束ねる 3 つの研究大領域、すなわち

- ・革新的な繊維機能材料の創成と用途拡大のための研究領域
- ・革新的なプロセス・プロダクト製造のための研究領域
- ・繊維製品の革新的ユーザーフレンドリ技術のための研究領域

を設ける。各大領域に関連する「革新的な要素技術」とその要素技術に関わる「代表的な研究トピック」を各要素技術に付記した。

新学会では、これら革新的な要素技術開発を担う研究会等を経糸に、各要素技術を有機的に連携させ学術・技術的な価値を創造・向上させるためのワーキンググループを緯糸として設置し、技術革新の勃興を社会に波及させて社会変容を促す。詳細は次頁の III に示す。

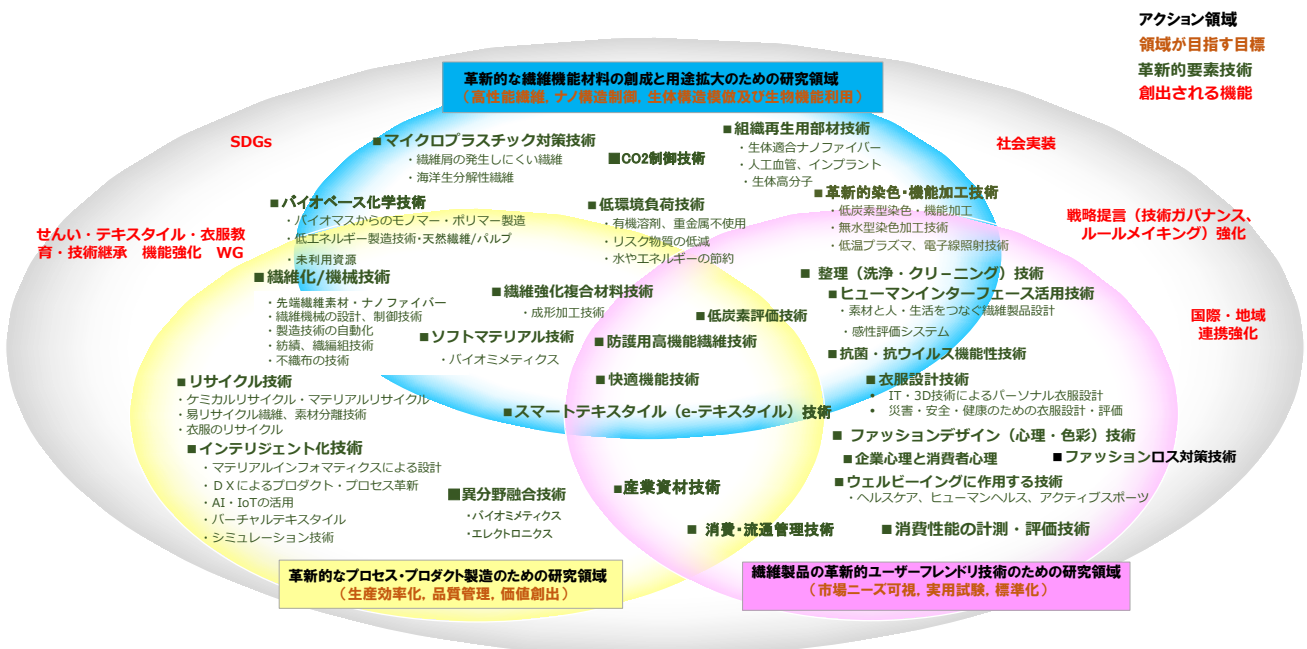


図 II. 研究活動に基づき生み出される革新的要素技術 (平面展開図)

III. 要素技術を社会に還元し、社会変容を実現するための機能

新学会では、これら革新的な要素技術開発を担う研究会等を経糸に、各要素技術を有機的に連携させ学術・技術的な価値を創造・向上させるためのワーキンググループを緯糸として設置し、技術革新の勃興を社会に波及させて社会変容を促す。

新学会の緯糸となる、繊維技術の革新を社会に還元し、社会変容を促すための横断的・俯瞰的な活動として、「せんい・テキスタイル教育・技術継承 機能強化」、「社会実装」、「戦略提言（技術ガバナンス・ルールメイキング）強化」、「国際・地域連携強化」を推進するワーキンググループ等の枠組みを設定する（緯糸）。これらの枠組みでは、関連組織・機関（例えば、政府、協会、標準化機構等）と連携して、「サステイナブル」で「ウェルビーイング」な社会の実現を新学会が組織的に力強く牽引する。



図Ⅲ. 要素技術を社会に還元し、社会変容を実現するための機能（平面展開図）